

財団法人 日本塗料検査協会 監事  
同協会 東支部塗料試験方法研究会 幹事  
神奈川県産業技術センター 工芸技術所長  
鈴木 隆史

●日塗検とのかかわり。

日塗検とは、藤沢市内の東支部で開催された塗料試験方法研究会幹事会への参加が始まりで、1996年のことでした。それは恩師の吉田豊彦先生（同会元名誉顧問、元職業能力開発大学校教授）のお誘いです。さらにこの10年前の1986年には、ある講座の講師を依頼され、その前任者にテキスト資料の引用をお願いしたことがある。快くこれを許していただいた方が山本和子さん（同会元名誉顧問、元日本ペイント(株)）で、この研究会でお会いできたことを鮮明に覚えている。塗料を楽しむお二方の、我々研究会の後輩を豊富な経験を踏まえての指導には感謝しており、研究会は塗料を楽しむ技術者の技と心を学ぶ良き機会にもなっている。今後もさらにご活躍を期待しお願いもしたいものです。

また、公設試（試験研究・技術支援機関）の塗装技術者による全国会議が年一回各地で開催されており、継続的な日塗検の参加は大変貴重な存在になっている。

●良い塗料とは、何か。

結論を先にすると、「立場・立場で異なるし、さらに立場が同じでも部門が違えばまた異なる」。これを独断で整理してみたい。「製販装」は、言うまでもなく（塗料）製造業、（塗料）販売店、塗装業で、これが「立場」である。さらに加えて、新たな視点も大切だ。

塗料メーカーにとって、その製造部門では製造しやすいことであろう。例えば、クリヤーで適切な性能が発揮できれば、顔料分散工程が不要となる。一方、営業部門では、他社にない特殊な塗料や他社と競合しても抜群の性能があれば売りやすい。市場が大きく、利益率も重要となる。そして技術・開発部門では、

良い塗料の開発に努力している。

塗料販売店にとって、かなり以前から多くの点で変化してきているようだが、主とするメーカーの塗料が扱いやすいし、小回りが利く。また性能に比べ価格が安いこと、利益率が高いこと

とも良い塗料の重要なポイントであろう。しかし、最も大切なのは塗装業の人への塗料情報であり、喜んでもらえる塗料である。

塗装業、企業内塗装部門にとって、塗料を塗り、乾燥・硬化させて被塗物表面に目的の塗膜をつくる塗装業が塗料メーカーから見ればユーザーである。タレにくい・速乾性などの塗料性状、研磨しやすいなどの塗膜性能に対して、良い塗料の選定は多種多様となる。

製品（塗装された）のユーザーにとって、これは塗膜使用者、つまり一般の使用者で最も重視されよう。視覚的に美しい色・艶をはじめ、耐キズ性が高く、耐久性のある塗膜であることなどが要求される。製販装に加えたい塗膜使用者の立場である。

さらに、LCA（ライフサイクル評価：Life Cycle Assessment）の立場がある。原料採取から製造、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおいて、環境への負荷（資源やエネルギーの消費、環境汚染物質や廃棄物の排出など）を発生させている。ここにも良い塗料の大きな側面が存在する。関係者のさらなる努力と協力が、早急に望まれる。

